

令和5年度 輪之内町立仁木小学校 自己評価書

学校の教育目標		ひろい心をもち豊かに表現できる子		
経営の重点	◎ 学校の教育目標の具現に徹する学校の経営 ◎ 一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進 ○健康安全教育 ○学級経営 ○学習指導 ○道徳人権教育 ○家庭・地域との連携 ○働き方改革 ◇指導・支援の基本＝「ひたむきに取り組む姿を徹底して褒める」			
町の重点	評価の窓	評価	12月までの成果	1月及び来年度以降の課題と改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営地域との連携による学校づくり	A	○子どもにとって値打ちがあるかを考えて業務の精選を図った。業務に優先順位を付けることで仕事の効率化を図ることができた。	◆今後もさらに継続して精選を行い、職員の退校時刻を早めに行うようにしていく。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	B	○「ミニ研修」を終礼後に行うことで、日常の様々な内容の研修を行うことができた。 ○経験の少ない教員の身近な疑問に、経験のある教員が答え、解決のヒントとなる交流ができた。	◆毎週行うのではなく、ミニ研修がより効果的で充実したものになるよう、月2回程度(隔週)で行い、あらかじめ内容を教職員に募って(アンケートなどで)、計画的に実施したい。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	B	○ペア、グループ、スクランブルと多様な交流にて分かったことや考えたことをアウトプットすることによって、考えを深めたり、広げたりすることができた。 ○個人のつまづきを把握し、1人1人に寄り添った授業を行うことができた。 ○「歯と口の健康教育」を中心に、全学級複数の授業公開を行って、教職員が互いの授業実践のよさを学び合うことができ、授業改善に役立てることができた	◆子ども達自身で答えを導き出したり、考えを深められたりするよう課題解決学習型の授業づくりを目指していきたい。 ◆机列表をもっと有効的に活用し、個々の評価や指導に生かしていきたい。 ◆何を考えながら聞くかよいのか視点をもたせながら聞かせ、自分の考えを深めさせたい。 ◆思考を整理したり、指導と評価の一体化を充実させるためにも、ノートづくりを推奨していきたい。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心育てる。	生き方(命の大切さ)についての考えを深める道徳教育の充実	A	○なるべく多くの児童が話すことができ、活発に意見交流できるように、教師は、児童の思考の整理をすることに心がけた。 ○全学年が道徳の授業公開を定期的に行い、質を高めることができた。	◆展開後段では教材を離れ、自身を振り返る時間を十分にとり、評価との一体化を図りたい。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	A	○高学年を中心に英語専科が授業を担当することで、主体的なコミュニケーション活動を目指した授業が展開できた。 ○輪之内町校区の小3から中3までの学習到達目標の一覧をもとに、指導と評価の一体化を目指した授業実践を目指すことができた。 ○学んだ英語を使って自己表現できる学習を展開できた。	◆個人用のデジタル教科書の活用が推進できる指導と見届けを工夫する。 ◆単元につながりを持たせて既習事項の反復をして、表現力を育てていきたい。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	B	○様々な教科や領域で外部講師から学んだり、行政バスを活用して見学に出かけたりすることができた。	◆人材バンクとして整理して、教職員が異動となっても持続可能な学校と地域人材とのネットワークを築いていきたい。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	A	○QUの研修を活用して、学級の様子を把握し、活かすことができた。 ○学期始まりには、エンカウンターをし、クラスの雰囲気をよくしようと、子どもたちの人間関係をよりよいものにする事ができた。	◆今後も、QUを活用し、クラスに応じた学級経営ができるように、していく。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	B	○生徒指導交流などで全職員でケース会をもって対応などを考えることができた。児童だけでなく、保護者からの相談に対しても素早く対応することができた。 ○教職員は、毎日の休み時間に子どもたちと一緒に遊ぶなど、児童に寄り添うことができた。	◆登校しぶりや不登校傾向のある児童への効果的なアプローチが難しかった。学級への所属感を高めて安心できる場を作るためにも「SGE」などの開発的カウンセリングや心理教育を定期的に行い実施していきたい。 ◆不安を抱えていそうな児童への声掛けや教育相談を通して、積極的な生徒指導を心がけたい。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付けと事前・事後指導の充実(キャリアパスポートの活用)	B	○一人一人が役割をもつことにより、自分の仕事を明確にして動いている姿が増えた。 ○自分から明るく挨拶をするだけでなく、挨拶し返すことを意識することで伝統の挨拶へとつなげた。	◆自主的・自治的な児童会活動になるよう、仕事内容やキャンペーン内容の1年間の見通しと計画を行う。 ◆児童は「できた。」と満足しがちであるため、黙々と掃除をすることの意義や伝統としての意識づけが難しい。学年に応じて掃除のあり方を考えたり、よい姿を広めていったりすることで、伝統として誇っていきたい。
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	感染症対策を講じた上での、体力向上のための取組 自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	A	○委員会での取り組みや歯みがき活動を通して、全校児童が歯の大切さや歯みがきの仕方を学び知識を身に付けることができた。 ○体育の授業内で、運動する時間を十分確保している。休み時間には、学級遊びを計画的に行い、運動に親しんでいる。また、体育で学習した内容(鉄棒、縄跳び等)を、休み時間でも自主的に行う姿が見られた。 ○多様な設定での命を守る訓練ができ、教師も児童も真剣に臨むことができた。	◆今後も、歯・口の健康に関する意識を高め、実践化につながるような活動、全校研究会の中で継続的な指導をしていく。 ◆保護者が来校する学校行事の際に、親子で歯みがき活動やICTに関わる講習を行い意識を高めて、家庭と連携が図れるようにする。 ◆「ぎふ いのちの教育」の研修を行い、教師が確実に児童の命を守る。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	B	○全校体制で支援体制づくりができた。ケース会を随時行い、全職員で情報共有をしてすすめることができた。	◆専門的な視点からの子に応じた学びの充実、個に応じた支援指導等の指導力の向上を図っていく。
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	A	○全体でよい姿をほめたりすることができた。行事や清掃活動でのボランティア活動を行ったことで、児童をほめる場面が増えたこともよかった。 ○ひびきあい週間の取り組みや全校集会を通して、児童自身が考え深める人権教育を推進できた。	◆学級でのよいこと見つけなどは形骸化しないように、視点を変えたり、全員を価値付けられるように、さらに工夫改善を図りたい。 ◆一年を通して福祉・人権教育の取り組みを継続し、常に自身の言動を見つめ直すことを継続して、実践力のある児童を育てたい。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実)	A	○「歯と口の健康教育」の全学級授業公開を通して、タブレット等の様々なICTの活用の仕方を共有し、お互いに取り入れることができた。	◆学力の定着という面で、「webラーニング」や「ドリルパーク」などのコンテンツを積極的に家庭でも行えるよう啓発をしていきたい。

学校関係者評価)

○校内でも、地域でも、よく挨拶ができる児童が増えてきた。自分からという意識を高めて、一人でも挨拶できる子を育てたい。
○ICT機器の活用に加えて、発表やプレゼンの仕方も、学年が上がるにつれて上手になっている。これからの時代に必要な力が育ちつつある。
○読書や、歯の健康については、継続的な取り組みを行って成果につなげていきたい。長期休みなどに親子いっしょに取り組める活動をするなど工夫したい。